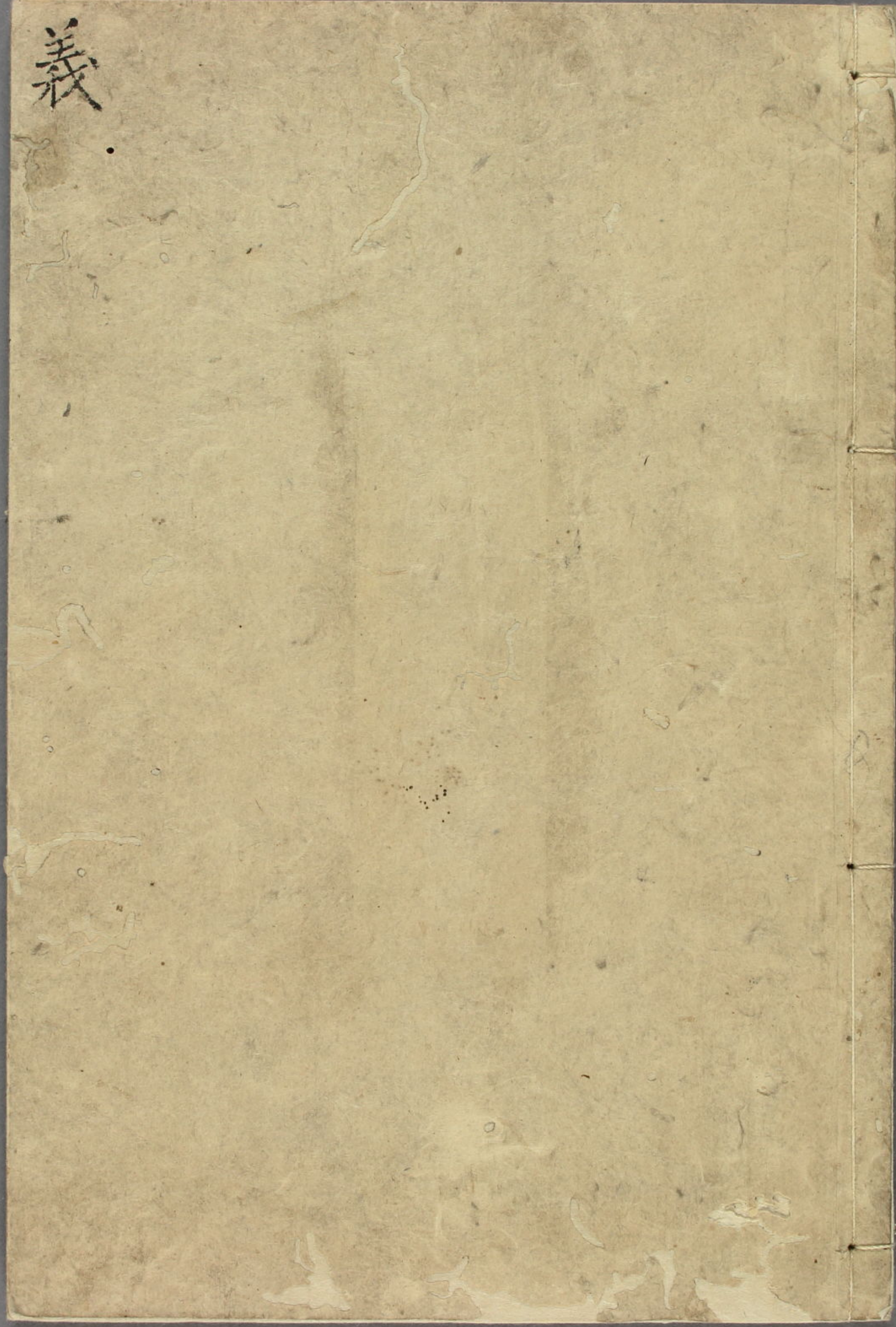
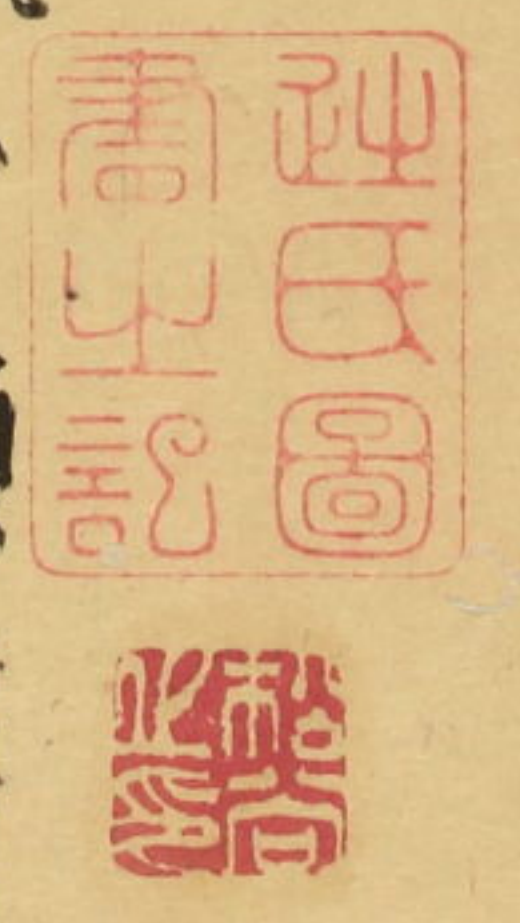


義



貞享正凡の解作書ニ云々

一之書ニ云レカ如ク其節の夕凡ハ貞享正凡
百と云々録レテ一足道節四十一果と云
四十七果をノ百と知レハ一之後ハ翁旅中ニ有リ
多クハ新果の衆士ヲ對スエ録の凡の夕意深
クシテ其故あり而シテ四十一果四節旅中ノ中
一ノ難波の夢と云々一ノ不故ニモ取意知レテ
ハ一自其意の凡ハ門人十節口ヲ稱ヤレ其奇
と云々ノ果ノ夕七ノ條一ハ不其字中の凡と云々



蓬瀛之歌

アツク蓬萊、比るハ後人ノ
世トシテ、去リ夕中仙機也

尾品、あつたまをりりりり

師之の海人々とわたり

此尾品、蓬瀛ノ歌ニシテ、煉レル所ナシトイヘ
自ラ、蓬瀛ノ名ナシハ、本クテ、字ニ注解セリ
後ノ、蓬ノ日、蓬栗トハ、同列トスハ、キニハ
アツク去シ、は、夕中ニ、妙アリ、瑕ノ吹モ、又、毎
交レリト知ルハ

歌

海く水く 野の多日のうみ

芭蕉

是海也、ソテ、一、意、夕、是、フ、海、ク、レ、テ、ホ、ノ、カ、ニ、白、ク、野、ノ、聲、ト、ス、ハ
海、也、ニ、至、合、セ、テ、二、意、ノ、夕、ト、ス、也、乃、ク、ヨク、味、ヲ、考、フ、ハ、
第、一、意、ヲ、採、ル、ノ、道、途、ニ、アル、カ

師之、海鳥ノ聲、ホ、白、ク、イ、カ、ニ、ト、事、ル、句

定

事小 録 妙 あつたま

桐葉

浦氏ノケシヤ、西江ノ水ヲ、吸、取、ス、ル、語、イ

轉

二百年 秋北山 小舟

東藤

其、腸、出、者、ナラ、ズ、神、人、ノ、凡、アリ、ヨキ、轉、シ、妙

合

燈の 燈 輝ハ 山

其、秋、幾、ク、フ、不、知、フ、一、年、ノ、事、ヲ、申、ル、作、
真ニ、蓬、瀛、ノ、
卷、ナ、ラ、ク

解白
題

八月小野の鳥のつらき葉

連者事也 然ナシト 神鳥ノ餘意モアリ 悦ニ
カハリノ鳥ト云

か馬の重みり 回 の鳥はねの山 葉

然ルノケシキを別法

あつたあお 老うら 世の淡く世 山

三流ノ云

一輪 咲く 菊 乃 宿 屋

由ハ入ルニ由 本ハ草ノ原

美石 のユイ 二日とらふ目 葉

停花 然ラ今見甘ん心ノ同キ

園小かくそ 狐 啼 葉

疑ノ解シ園ノ夜ニ叫ブ又鳥ノ声ノ意

雨雲一々 吹く 雨 宿 葉

場 雲世及ヒ仙雲

花表 くらけ 松の入口 山

別無田町路ノ作

空 差く 衣のすし 綴り 葉

空山ニ風ヲヒキニ道士ノ作

秋の鳥の人くらひ 葉

今昔迅速作ハシ

一ツの神々の後ハ月澄々 山

人世ノサハカレキハ暫ク幸ト云

雲の白ト 龍と 牛は金 藤

進野ノ景像何故武ハ古草ノ龍画化ト云ルハ跡ヲトヒシヨク

花の白ト 石の影と 押しのき 葉

人ニ隠レノ石影難望トトノ意

美人の白ト ねむうけろふ 山

平家ノ人ハ終極内前

夷の聲 花の白ト 蝶と 花と 藤

不言長丈人漢宮ヲ足フ人ヲ而ハ名サシ妙

生流る 下ス 小七 袖ハ ねむうけろふ 藤

牛物也 七ノ字ニ十ヲミレテ始テ見ユヨク考フヘシ

木の石と 西ノ 以寺の 燈白 山

一向宗ノ者難ク

花散る 名 花の 十 是 是 是

其傍ハ云語在字同前

ほくく 花 燭 花 花 花 花

里伴ノ人サマ

来よ 名 花 花 花 花

三人ニ物散ナリ

不二の根を 芝草くさるるまふく 真

病人か物思フ人

うねり山 尾のつらら山

子ヲ思フ心一ツ者 別別家名求ルノ本

水も小鏡をえのひ 岸をひ 葉

念ニおナス心ノ思イニ夕ノ向方

衣もひやく小姓 秋の産を押す 藤

念ニ立テ小姓ノ名ヲ案内スル也

日記の 時々の心着 八つあきく 山

主時刻ヲ云内ニモ不意

権を急り消くく 水も 並

老人死ヲ心ニ懸ル伴 又悟

砂水も 男を 国に 送りたれ 藤

カクミ心ヲ永傳ノ伴

言 岳原 乃 縣 小 島 げくま 葉

此田ノ法眼リシカ行持也

紅 深の 岸 新小 花の 香を 枝 葉

駒仕立シトスサシ

ちいさな 空の 水 きの 日の 伽 山

ハヤノ高ナトノ短也

妻 雨乃新 天啓意 縁 爲し 夢々 葉

三井十トノ 兒ノ 伴

青 草 乃 後 乃 之 櫛 少 草 葉

三和ハシサマヲイフニニ云レハシ 櫛少ハ小兒ノ 思レ遊ヒ也

枕 草 藤 自ラ 我カ 九行 十レ 倍イハルカ カ、ルトキハアケケニアイサワモ智レ倒アリ

右 貞享元年 甲子 猿月十九日 眞行

同前

一本ニハ山路来テ何マラユカシト有リ人ノ字ニ任カ 甘レシカ何トハナシ是古翁ノ實意也ヨク味イ見玉ハ

起 何トハハ 何ヤ 申ウ 世 草 草 葉

無言ノ 言ケコタヘ

春風 無限 無 董ヨ人ノ色ニ夕ト云ル事アリ

取 編 乃 之 菱イ 之 蛙 中 所 爲 叩 端

無心ノ才門人師ヲ慕フ心

所 夕 田 標 乃 之 財 乃 之 星 之 あ 之 乃 亦 桐 葉

トナル

カタハラノケシキ 暖一ウ角

公 家 小 宿 乃 之 竹 乃 中 道 草

村 里 ノ 甘

月、星、雲、霞、宮、の、夜、洞、の、下、歌、止、付
端

民間ノ民氣

酒、香、の、姨、乃、い、ふ、淋、し、き
葉

月、の、姨、の、歌、を、著、人、モ、淋、シ、キ、カ

雙、六、乃、い、み、と、又、小、平、島、一
葉

口、ノ、ナ

琴、自、作、し、む、神、の、後、り、香
端

云

髪、下、と、侍、迄、り、娘、お、と、ろ、ろ
葉

正、懐

野、々、空、あ、い、い、好、玉、幸、乃、迄
葉

場、ニ、物、有、リ、テ、正、懐

さ、う、樽、み、さ、り、さ、草、と、り、さ、り、涼
端

ハ、カ、ラ

之、如、者、と、と、し、る、名、日、の、園
葉

進、山、不、作

西、白、の、遊、女、の、秋、の、夜、を、い、か
葉

進、行、の、事、ノ、サ、テ

灯、火、を、ま、の、お、金、さ、り、さ、り
端

場、ハ、イ、化、糖、ス

川流行 繁を角に流るる

葉

繁

会利 くら流るる

葉

川流

中こもる 石の内壁の流る

葉

葉

雨流る 雨をりゆる

葉

全巻 腰酒 流るる

分 流る 繁 送り

葉

秋の月 流るる

花 流る 乃 流る

葉

花の流る 乃の流る

子 列 一 笛 の 流る

葉

絶る 乃の流る

之 股 の 流る 乃 深川 の 流る

葉

中 乃の流る

流る 乃 流る 乃 流る

葉

流る 乃の流る

流る 乃の流る

葉

流る 乃の流る

いふ小町 照に 吹矢と負かす 直

山家ノ信人ノヤニ 石島道ノ通ニ

新日

此夕也して是ニスき而テ早ニハシ

山崎く 夕夜 山崎く 山崎く 葉

山崎クア 餘時ノ荒ニハシ

曇り夜 照 の 照る 心 ちり 直

平家 照 照る 心 照る 照る 照る

村田 の 照る 照る 照る 照る 照

遠慮ニ人ノ照るノ照る

心と 照る の 照る 照る 照る 葉

出ニ此知ノ照る 照る也 一ツ根ノ照る

照る 又由 照る 人 照る 照る 照る 葉

多分ノ照るノ照るノ照る

照る こと 照る 乃 照る 照る 照る 葉

女ヲ見テ イトニ 照るノ照る

照る 照る 照る 照る 照る 照る 葉

照るニ 照るノ照る

照る 照る 照る 照る 照る 照る 葉

照るヲ照るニ 照るノ照る

常盤山 常盤之女、花咲く
端

仙舟十人し 西条ノ伴ヲ云フ

子 のこは 津波呼ぶ
端

日暮人

此二句人志ヲ送リテ花ノ華ノ夕ト
トス武々常盤之女ニ以テ所
アラシニ流リガタシニ夕ノ花ノ名
メルコアレハヤ

石白不意二年丑三ノホヤ

此表今ノ孝ガリハテ 龍ガタシキヨク
心ヲセサルノ華ニミテ云フ見ルヘシ

花 衣々々 花の池より
きり長

春吹ノ花 池ニ花ヲ云フ

定 楊々々 花の一家 呼端

と心也 春吹ノ花 春ノ花ニテ云フ
春ノ花ニテ云フ 春ノ花ニテ云フ

花 山 花の池より
倚端

人々他ニ心ヲ持シテ見ルヘシ

水々々 花の池より
東藤

狩人ノサテ 自ら見ル

西白 野迄し 額をまう上 山

麦野海迄

マと のち産ふ 稚子と 魚

場ゆたふ

白舟 小 都 力 運 船 斗 舟 端

いへつらノ入念

そと 乃 井 小 乙 井 の 鏡 守 山

奈ヲ運ク云シ

いそと 鏡 浪 の 姥 神 と 人 札 葉

海原スウツ望白ノ照ラ世ス

うねより 野の 四五 所 の 舌 喰

多他ラ其ニは願ナカク

松 風 の 言 了 河 を 長 づく 藤

夕暮ヲ望ミシ

佛 とも 西山 の 僧 端

朽ノ抱ラ僧ノ抱アリ 僧持信ノ事ナト

石 井 玉 乃 登 さま 小 舟 舟 魚

河志ノウマコ入巻

魚 とも 尺 竹 舟 船 舟 の 日 葉

ハPナキニ意ヲ添ノキアツク掛フ

夜、思、味、ふ、き、と、の、を、つ、ら、い、り、く、

山

友人ノ其食ニ轉ス寒ケテ之ヲ

白子、の、ろ、く、

我、音、の、遠

庭

何奈ノ長者老人ニ遊ル事

之甚クカ属

波、う、ま、い、

緑、の、背、う、ま、い、

端

口士ノ物ヲ寄

法、而、は

陰、期

の、う、ま、い、遠、在

道

御草 草物

い、ま、物、く

也、修、う、ま、い、

修、身

院

行ツレシタレ侍

且、上、皇

の、信、乃、お、ま、い、

夕、暮、り

端

培テエナレニ見アケル優待ニ付

精、氣

乃、心、を

物、の、象、を、

茶

湯呼アツテ不測

風、小、舟、を、

り、ふ、乃、討、を、

山

セナレイノ見テトれ一障ノ風ヲ歎シ見

草、と、く、く、

木、の、影、を、

庭

云ノエヌ分ナリ

田、舎、を、り、下

ゆ、尺、を、

院

治乃見、ナレシヤ

才のゆく前曲のさるのあつし

石直衣トモ云シ本ヲ替フ

うり水々 君 せぬまうり

はト替レテモトヘ成ラス

銀の輝 子 船あうり

舟越々下ニテ分ッ箱

あけむ 海糸の 晴しき

フホムハ 照シ 陸海陸ノ修

鶯の 東のうの 川まこり

鳥居直ノ 居 来ノ字 水階

猿の 乃 雲乃 何 と 招く

栗ヲサケキル件ニ 海糸 舟越ノ 時ニ

解 鳴く 海糸の 枝の空

果柿ノ 林 秋ニ あり

うり水々 乃 馬の 尾の 響

ウサノ 尾ニ 列ニ ナリノ ありシ

うり水々 乃 舟の 燐の 響

海糸ノ 響シキ

入日の 跡の 星 ぬる川 へッ

海糸ノ 入リニ 入ルキ

宮守の油 つけつ七 花の奥 道

又さういふ悟

伊一 方 少き故とてさあ 吃

つしこいし 意味は月何、誰かアア

北西行ヲ通クニ出相トリス也 昔者ニ被シ

玉一 恒ニ空波ノ 竹産ニアタラツクアリ

昔出ーく ぬきぐくや 竹産

是より 我多あきま 竹産

此ニ白ク流ト云

乃尾

この口集 全

此集 眞存し 仲才一ニ 形ヲ 洞ノ 丸 巻ナレト 別して 深ク 味イ 見ルヘシ

序

道ニ 長途ノ 西ノ ありし 西ノ ありし

流り くの 名ニ ありし 侘 あり

いふ 人 ありし ありし ありし

り 昔 根 分 の 女 士 此 國 子 ありし

一 事 とも 國 ありし ありし

此 序 多 事 伴 得 たり ヨク 味イ 例 トシ 玉 二 後 品ニ 入 ツテ 是 國 子 名 女 士 ア イ サ ツ 七 又 和 ノ 以 名 證 証 二 河 井 何 来 とも 名 證 ありし 在 京 ノ

中ニ瘡喰ヲ病レ者ニヲカシキ卒底ヲ仰リテ
 忘リ然レテ而シテ瘡ビトテ竹竹知汝ニ母ヲ化
 此竹女ハ貞節ノ如生ニテ正セ分ヲヨコテ世ヲ
 世トモヒズ大言ヲ云廻リテ後ニ人ニ知テ後
 サレタル事ヲ出テタル物也是ヲ我々如浴
 ノ世人ニ念サレテ此竹女ニ以テテ 此子ノ
 フト口ヘテ我カハ一歳ト見レ也 此竹女物也
 近リ親ナレハ 此分ノ二子ヲ上ニ至テ世人ニ
 云クワケスル也 古ノ分ヨミ物カタリヲハツテ
 分ヲヨムニ此ス 若シ後屋ノ人ヲ讚美スルニ世
 上ニ出レ難ナシ

此竹女一人一節心ハ云非也分相 其妙ク之命ハ衆ニ皆ナシ
 此竹女ニ念サレテ 此心也 自ラ隠シ 心隠シ此一カ 此分ト
 イフニテ 竹女ノ字スルナリ

芭蕉

起 此竹女ト云テ竹女ヲ仰ル也

不棄 不ヲ離 既ニ世ニ居テヨク知ル 必最端シ

承 此竹女ト云テ竹女ヲ仰ル也

誰トク知 天下ノ翁山堂花ノ内後者ト云 此竹女ノ

轉 有明乃 主水ヲ仰ル也

若野ノ名有ナトニ公道ノ道達ノ見形 此竹女ノ命ハ 在代ノ竹

合 此竹女ト云テ竹女ヲ仰ル也

海ノカマ
十津川アメリヨリ夜ブコメテ来テハヨビ名即人ノ身トナシ

朝鮮乃わたりて、まきの白鳥

北園

瑞し馬、蘇州にありて死す

日乃ちりて、小野子、本とす

正平

名、十條、種、上ノ、若、業、ヲ、見、ル

我屋、ハ、流、ス、小、マ、ト、ウ、江、あ、ら、ま、り

野水

名、知、限、リ

髪、ハ、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り

色直

何、素、ノ、中、將、ト、ト、ノ、人

り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り

意、五

こ、れ、行、状

さ、ら、ぬ、り、と、り、小、ま、り、こ、く、し、に

荷、子

之、備、々、ノ、事、ヲ、行、ス

新、場、の、あ、り、は、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り

甚、直

貧、家、の、代、也

あ、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り

北、園

カ、ラ、イ、ハ

上、座、の、代

貧、士、ノ、志、司、馬、カ、四、原、真、ヲ、寫、入、レ、ル、云

田、中、や、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り

荷、子

信、路、回、海、側、ト、云、コ、ト、有、リ、ト、事

中、の、代、の、出、ツ

身、子、あ、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り

野、水

上、七、白、ノ、間、ニ、若、能、ク、モ、ツ、ク

仰、信

わをうれを 携り 祿し 月 廻り 杜 田

目ヲ括スルハ景友ク別也 千ハトホヨシ

とみま さいしり 可なり 祿ん 幸又

吾上人ニナリテ見ル傍ノ景多ク可ナリ

二ノ花 子 出 海 の 花 の さき 色 せ け 跡 水

一ノ花ハ出後トナラフハニ花ニナリ又ハ出後ト云ル

蝶 ハ とい け ち ぬ へ ころも 糸 心 色 並

今 雲 色 居 ヲ ナリ

のりとも の ち ち 露 遠 け 色 ね 目 ち ち 色 空 又

在 物 詠 ノ け

ハ 月 色 恨 の 文 と ち ち 月 聲 為 空

を 時 ノ 恨 ノ 口 々 聲 今 思 フ 心

ぬ 人 の 記 念 の 松 の 吹 け ち 色 並

ち 松 ハ ナク ナリ 色 ハ 今 ナリ 跡

え け ち 字 極 の 色 を け ち 水 杜 田

英 徳 郡 上 宮 池 川 二 ナリ 色 水 色 且 云 字 極 ヲ 白 色 故 ナリ

星 け ち ち 女 理 子 七 ぬ け ち 水 尚 空

星 池 山 ノ 夕 晴 雨 ト 附 け 風 流 橋 上 景

そ ち 水 ち ち 色 ち 切 ち 色 色 色 野 水

柳 好 々 唐 ヲ ナリ 野 水

ろくろくを碎りし人の骨、何 杜因

冬和唐マナシニ既真ニ白草原ノ伴

鳥獣ハ之を之の 因のうろく 草又

何ハ云ハ台ハ身ハ上ハ夕リコトセ

あま水さめ 淫まるとけり 野水

蜀帝ノ水ニ死シタレド心

新水 一斗 ときゆく 野水 色甚

秋ウケル如 漏刻ノ水 夜永ク 雨ナメリ

日東の 李白 坊ふ 川とん 草又

轉シテ漏リ 壺トシテ李白カ何ノ事トス妙

中ふ 木槿を へんま 野水 打 荷字

二意 金花ヲ載 野水ヲ載 夕御ノ巧

ろりの跡 くらふ 草のくま 野水 色甚

十斗ノ心 翁ノ真意 世白ニ見ニ

美し 野水の 色を 野水 杜因

コノシロナルヘシ 夏ヲ得テ 家ニ歸ル

おいの 野水の 野水 野水 荷字

生 夏ヲ牲トス コノシロアケレリ

糸ハ 野水の 野水 野水 野水

常事ニカシ 如 歸ハイマシノ 妹ハ玉ノ 薬ニヤ

綾 ひとへ 糸湯よ 高雲の 雲濃く 杜園

室ニ高雲ト是ニ所白雲原高ノ伴

廊下ハ 蔭 カンケツツヨ ヲ 宮五

陽庭ノ廊下ハノ字ニ于る夕ト一急ノアゲク
好ハナリ

此空の日ノ年 柳の在ハ ねねニ云云
宗園ノ下ナリ ねねニ云云 兼上ノ取 兼
堂リト 名ニ定ラレ 其申ノ其の朝日ト云
ワヨ 高クありト 今ノ空の日々ト云ト云ト
自ラ名トナリト云ト云

ふゆも 水年いふよ 衣を脱リト

ふゆ妙イタツラニ花ノ年ノ海母ノ中ニ
ヨクセルノナケキナリ

紙 へり雪の ぶしも 清きく 野水

雪降シハチキキノ説ニ云ヒヤ景ヲ云キ 常人ノ言ハル

西 戸水ノ 人水 草甲 の家 杜園

この用ニ云ヒシメノ言ノ白クニル
四ノ巻ノウセ

轉 野水ノ 水年いふよ 糸湯よ 高雲の 雲濃く 杜園

秋吹ニ九直スル

くゆつ ぬき水年いふよ 糸湯よ 高雲の 雲濃く 杜園

東寺ニ御回浮草アタリノサテ

麻子、月、袖、子、韻、鼓、を、吹、け、り、と、
重五

貞徳老テ髪ヲ近シ長流凡レ云ヨリハ父ト云ク哉

柳、花、を、
正平

貞徳ノ目ハ似見ノ柳山ニ降ル

雨、上、庭、を、
北因

日標ハウツル事アリ

真、の、
野水

弦而ノ子カニ云キソカキリ

庭、
為子

流、敏、胃、日、士、名、ノ、リ、合

縁、
七、

星ノ月

水、
野水

メリ根

水、
重五

松山ノ城法水女ノ屋ニ

小、
色、

古、
前ニ必ス此陽アリト云人

月、
北因

盗人ハ貴人ト見レ見生ト月ヲ不待

種あまのひらき、あまのひらき

いづ

あつく空のこ、世を如く河、あま

表町ノサマ

くひるぬ、世とくま、家のいづれ、北国

初花ヲ極味ハ是ノ一説

のみら、いくら、乃、あまのひらき、あま

幸ノ阿ノ意、或ハ麻ノ情

福とこふ、縁とゆる、園あ、あま、あま

カノユキヲハルキ

くく、く、く、く、く、く、く、く、く、く

あまのひらき、あまのひらき、あまのひらき、あまのひらき

く、く、く、く、く、く、く、く、く、く

あまのひらき、あまのひらき、あまのひらき、あまのひらき

あまのひらき、あまのひらき、あまのひらき、あまのひらき

奉成うは 山々ふ 金すうふ 草

メスノ白石ニ好す

いとふ 乃今 の下 草

群集退散リ云

遠くは 路のよ 遊ふ 又りふ 北国

蓮ノ雨 昔リ云

中しふ 今く 草 野水

草葉ノサ

A 草の 花の 葉の 草の 草

草人ノ草 四ノ草ノ白ニ是草人ニ

草の 草の 陰 草の 草

草子ノ草ニ

草の 乃 上草 草の 草の 草

草の

草の 乃 草の 草の 草

草の

草の 草の 草の 山 草

草の

草の 草の 草の 草の 北国

草の

この花 野路 尾長の多きいさ 草

野路花の傳

さくさくし いさも 越のうと 草

花を花にワタレ

和の曰 之ヶハ 孰多しトイハ 臣皆推量ノ事
十之 是ウニ 之ヶハ 人ノ名也 仙洞ニワリヘシ
人心ツキア 存ノ集ニ 此人ノ白見ヲ 勿クハ
此人ノ事ノ事ヲ云テ 白髪ニ 越人ナキ
ニヤ 前ウ 白ウイフニヤ

つえとく事 僅ニヤ

洞川カキアリ

世國

ゆきゆき 月丸 舞ハ

葉白

上巻中フ一ウハ 此傳トセリケシクノウシ
一カカキタルサニ

こゆき 舞ハ 水のいふは 草

晴間ノ早キヲ云

遠原の草と 初狩人の女も 野水

軽暁ノ初ヲ狩リト見ル

北の門の ねー あけのき 草

葉門ノ 為狩北門ヲ云

馬糞松 ありきりね の子うきき 荷号

山崎 ちか、ケシキ

茶の湯者 不いふ 野邊の岸を美 正平

アウタノ下ニテシタレナト

新〜〜子と物ふむ 娘の川〜〜 春五

ナトナヒコトクニ 或ハ茶人、ツカハレトス

燈の影 ぬ〜〜の〜〜け〜〜ぬ〜 北國

思ハ花ノ又ニヤ ケヌノテスラヤノ層ガ

つゆ秋のまほふ 力を〜〜惜〜〜ぬ〜 芭蕉

時ヲ得玉クヌ 宮、ケシキ

暮まよ〜〜人〜〜 後集 東 乃坊 野水

せヲ信給シ侍

朝日 和 愛古〜〜の 藤原〜〜 北國

古件ノ旅費

新花 ゆき みるふ ぬ〜〜き〜〜ゆ〜 春号

三傷

と〜〜の〜〜る〜〜の〜〜き〜〜と〜〜 雛を〜〜け〜〜ぬ〜 弥水

志ト妻ス 信有、ノ、カ、カ、カ

常路の 君〜〜を 采〜〜んと〜〜し〜〜 室五

思フタハレトフハ 見ハタレル妙

おろろ、おろろ、浪浪のわがわがわがわが 荷子

茶ヲ送ルニ愛ス

佛のつらみ 多良解き くら梨 芭蕉

鏡ナドノ佛像ヲ吞ルニ在座

髭のつらみ くら見次郎と仰水 重正

日命ノ國ニアリシ古名

五形 葦乃 島 ち反 くらく

女レノ田女持ルルサテ

くらく くらく くらく くらく くらく

約心ノ作ヲ示ス 眞ノ氣流ルル意ノ作

くらく くらく くらく くらく くらく

春陰酒ニ在座

くらく くらく くらく くらく くらく

旅中飽呆ルルニ在座

くらく くらく くらく くらく くらく

暹智ニ在座ニ在座

くらく くらく くらく くらく くらく

子ヲ抱シ里中ヲ見テ

くらく くらく くらく くらく くらく

心程ノ意

雪の夜 異の國の 笠の影ト云 前号

雪の夜と異の國と云ハ云クテ夜と云フ

襟小 之雄ッ 巾袖と云 とも

華奢ニ轉ス

あこ人 と行を 宿を云ん 草又

女年陽使云

赤子の印と云 小ぬると云ク 縁 とも

ハカナキト云ス

之月 の東ハ 晴く 縁 とも 色

縁家ノ作クマラカニ云フ

秋 湖 うねと云 琴 之と云 野水

湖上詩人ノ心

高る 車 ば 巾と云 とも 野水

舟遊ヒノ意也

声 之と云 音 之と云 音 とも

表所ノ解ノ意

子 と云く 巾 之と云 とも 野水

信シテ信ス

ふゆい と云 巾 之と云 とも

志ハ云フテ 巾ノ卑ク

ふふ花れりしゆ 花のゆけふ入 菊号

花の結を轉す

りの望のりそ 初しめゆく 花書

花の字、中に入つてアテトス

菊 西行ラレタヘル事も變ラレシハシ西行、分ハ

アテ子ノ人口ヲシテ花家ト記ス

花のゆけふのりそ 花のゆけふのりそ

その下りのりそ 花のゆけふのりそ

菊 花書ヲ我 花にハアテ、花トス

なまは涙の山 花のゆけふのりそ

花 出た花のりつる花のりそ 花書

花のゆけふのりそ 花のゆけふのりそ

花 花のゆけふのりそ 花のゆけふのりそ 花書

花のゆけふのりそ 花のゆけふのりそ

花 花のゆけふのりそ 花のゆけふのりそ 花書

花のゆけふのりそ 花のゆけふのりそ

花 花のゆけふのりそ 花のゆけふのりそ 花書

花のゆけふのりそ 花のゆけふのりそ

凡吹うぬ 衆の日 瓶の酒をさす日 老翁

佐藤ヲ羅えん家

蘇州 かしは 市子 賑うと云 羽衣

葉ヲ著書ヲ備シテ物ルカ 第ニ市人ニ此堂ウレト云

かよ川や 砂塵 千代より 激進 翁

川原ノ上ニ稻荷アリ 葉ノ日砂塵ヲ捲キ多ク見ルト云

いんぐ の聲 ちりり の波 草又

同名川ノ声ニ多ク好シ 佐藤云云 蘇州ノ草又

かり山より 砂捲かきり 了る水々 跡水

砂捲かきり

うすいんぐら 田越る 之原 杜因

土手ニ隔リ田ノ相 ヲフクメル形

残り水々 くらぶる 知字 難しき 田舎

田舎ノ水々ヲ見ル

火をうね 火燈 ちり 人々 芭蕉

賑ハシキ事ニ似テ

門守の翁 2 柳の子 柳のこゝろ 芭蕉

クワカ 芭蕉ノ伴

血刀 かくは 日のくさき 翁

本意ヲ逐まん昔物カキリノサテ

鳥下りく かくの降 七のゆノ 杜園

はるはるのついでに

冬より 柳を ちりぬ 一 野水

春の祥雲ナトノ作

春の泣 柳の 樹と 降る 色は

暮四日ノ思フ

春より 泣く 春 雨は

大悟

白鷺 濁る 水も 羽を 洗ひ 荷を

白鷺の斑文アリト云

意の 明く 叙を 鑄る 堂に

此意ノ如キ美人ノ云々

千年 経つ 見こ 堂に 母は 野水

西王母ノ来ル侍

は、い、ち、も、七の 書 杜園

雑中之云々ハナリ前ヲ仙ト見テ

西南に 桂の花 の 仲の かな 野水

日下早ク春候

蘭の ちり 下木 山 野水

漢家園と云々

野の家子買あつた女尺く返

練下はハキタメ

め瓶小雲水 洗小のりそ

栗ト云洗アリ 如女買女ノ屋

くま子あつた 終子かき

孝ノ妻ノ侍

中い 命は 糸糸の宮

妻ノシハムレ

寅の日の 旦と渡流の急り馳

孝ノ女侍

雲ふくし 南京のせ

剣氣柳色

いのきー 難し知れ人の係

石名四ノ侍

泥ふくし 芥の根

買人侍ニトエ

淵くま ありけり

山門ニ宿シトノサテ

狩衣の下 小鏡

主人

北のふらぐく 麓 折てく 水

都府の傳

新〜近石 着きき 花 社園

以流海海

在人家に到つてアケムスアノ心ナシ

以流北有無ニアリ ニナレクリ 占世海本集ノ

理ヲ深ク味イ抑セハ家ニ運ヒナシ

田家脚

詩意ヲ執トス

荷号

張 二ぬ日や 鶴の ノイ〜ひ

白字ノ字アリ 言ハル

定 冬 の 影 の あ〜水 草

冬中ノ一ノワキ集ノ名家ニ記ル

折 櫻 樽 山家 の 解 と 木の 葉 花

白妙トノ事ニ記長 宗伴 字他ノ之ヲ物集ニ 記アリ

一 念 心 け け 牛 の 陰 と 月 花 杜 園

心ハナクウツ、ヤケリナリ 不 然 夕ト 人ノ 記ス

江を近く 獨坐屋と母を控へ 萱子

母を控へ

永日 出よ 夕 暮るる 杜因

心表真如ノ珠ヲ寫ス

心 念 留 心 暮 暮 暮 羽空

ケシキ

筆 樂 中 月 山 山 野水

途中停

音 々 々 吐 涙 々 々 々 色 色

吐ノ字礼後慈腸ノ停也

念 念 の 念 念 々 々 々 々 荷 字

世ヲ控ル登心

源 の 々 々 々 川 經 々 々 杜 因

世ノ情ヨリ景ヲうつむ花子ノ意

水 々 々 進 心 水 の み 々 々 萱 子

用意コシス

山 々 々 々 々 々 々 々 々 野 水

早キウウウ

草 屋 々 々 々 々 々 々 々 々 野 水

終年籠居ノ停

茶子居の小崎文リ子 抄群々 荷子

イワタライ人

おまゝ 道の實 へるる 道の實 芭蕉

功ナリ 卯不四ウ 天也

まの へるる 飯屋 刀を 州のお 重子

今日 類ニ 喜ムス

戸路 ぬく まつ子 ぬて ぬき 北園

静ノ字ニ 附ク 摩訶 二 伴

的 杖 小 居 根 吹 水 ぬ 片 之 所 羽 筆

産花ノ 故

豆 膺 は へ へ 母 の 袋 子 入 野 水

片 四 合 ノ 事

え 政 の 者 十 乃 叙 七 破 ぬ 介 芭 蕉

深 草 ノ 隠 士 ノ 事

は 己 亦 性 の 澄 々 ぬ ぬ 介 子 竹 の

寺ノ 山ノ 地 名 之 十 澄ノ 事

り ぬ ぬ 子 冒 猫 ぬ ぬ 子 ぬ ぬ 子 杜 園

庵 中 温 斬 猫 ノ 事

ま の へ ぬ の 雪 ぐ ぎ ぬ 子 重 子

正 四 所 ナ ト ノ 庭

水干 跡 秀 白 の 跡 づ け づ 本 跡 水

フリスカ 聖人 墨任ノ人 白書ノ白

山 菊 花 白 小 笠 の 巾 子 跡 白

名人ノ侍

且 差 出 本 一 丁 一 丁 一 丁 跡 小 菊 白 の

跡 水 干 跡 秀 白 の 跡 づ け づ 本 跡 水

下 一 丁 一 丁 一 丁 山 菊 花 跡 の 白 書 一 丁

多 人 と あり 一 丁 一 丁 一 丁

追 加

跡 一 丁 一 丁 一 丁 跡 秀 白 の 跡 づ け づ 本 跡 水

天石 墨 又 坊

定 跡 火 小 あり 一 丁 一 丁 一 丁 跡 秀 白 の 跡 づ け づ 本 跡 水

生前一丁一丁一丁一丁

跡 一 丁 一 丁 一 丁 跡 秀 白 の 跡 づ け づ 本 跡 水

古人ノ西宮 跡ノ白書 東ノ十ノ侍

美ノ跡 一 丁 一 丁 一 丁 一 丁 一 丁 一 丁 一 丁

跡 一 丁 一 丁 一 丁 跡 秀 白 の 跡 づ け づ 本 跡 水

名人ノ侍

北 園

銀しるし

下

給たまは

日ひ

海うみ

全アリ銀十し葉又ヨシ

尾小松

尾

山

山

尾品尾ノケシキ山海ノ此ナラシ

尾品ノ地と編シテ

あきの日集ノ路トモ

貞孝子甲子ノ書

右一葉ハ其ノ日と云々主と云々ノ日

ハ貞孝と書中中一と云々山と云々一

才ニの書カ多ク云々、兄ノ子ノ一

後いゝし所一葉及貞孝ノ命の

評をいゝ貞ノ一書と云々其ノ

貞孝の意思を直に云々一

此ノ書と云々一

右口標本之書其德のPに

以是見此字之別集正上

明和八續旨。男物作

東門子



